

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名：

評価センター

部局長名：

山田 雅夫

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域 ①-1 目標 <small>※全学の組織目標に留意のうえ、主として以下の項目について目標を設定してください。</small> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の実施体制(組織的なFD、教員の心センティブ向上を含む)について ・教育方法・内容について ・教育の成果(学習の成果、卒業後の進路)について ・学生生活について ①-2 目標とする(重要視する)客観的指標 <small>※重要視する指標(裏面参照。独自の指標も可。)及びその目標値を記載してください。</small>	自己評価
②研究領域 ②-1 目標 <small>※全学の組織目標に留意のうえ、主として以下の項目について目標を設定してください。</small> <ul style="list-style-type: none"> ・研究水準及び研究成果等について ・研究実施体制等の整備について ②-2 目標とする(重要視する)客観的指標 <small>※重要視する指標(裏面参照。独自の指標も可。)及びその目標値を記載してください。</small>	自己評価
③社会貢献(診療を含む)領域 ③-1 目標 <small>※全学の組織目標に留意のうえ、主として以下の項目について目標を設定してください。</small> <ul style="list-style-type: none"> ・地域社会との連携、社会貢献について ・国際交流・協力、外国人研究者の雇用について ③-2 目標とする(重要視する)客観的指標 <small>※重要視する指標(裏面参照。独自の指標も可。)及びその目標値を記載してください。</small>	自己評価
④センター業務 ④-1 目標 ・グローバル化の進展に対応して、教員活動評価及び部局組織目標評価の評価項目等を見直す。 ・部局組織目標評価及び現況分析評価等を有機的に活用し、第二期中期目標期間の自己点検・評価を実施する。 ・教育研究活動等の改善に資するため、平成26年度に受けた大学機関別認証評価の結果を基に改善を促進する。 ・研究者総覧による主要業績等の情報公開を促進する。	自己評価
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標 ・研究者総覧による部局ごとの主要業績等の公表率	【教員活動評価】 スーパーグローバル大学創生支援事業の計画に対応して平成27年度から新規に追加した「国際通用性」の評価項目について、おおむね5割の部局において評価調査への反映が見られた。評価実施後、部局長からの意見を参考に運用状況について検証した結果、「国際通用性」に関する項目の定義や評価基準が曖昧であることから、次年度へ向けての改善策として、各部局の評価調査を基に「国際通用性」に関連する評価項目をまとめたものを、評価実施時に各部局宛に参考送付することとした。 【部局組織目標評価】 平成28年度の大学の組織目標に掲げられた「ダイバーシティの推進」について各部局における組織的な取組を促進することを目的に、教育・研究領域の目標に「教員組織の多様性」に関する項目を追加するため、平成28年3月に実施要項を改正した。 【第二期中期目標期間の自己点検・評価】 第二期中期目標期間の部局組織目標評価及び平成26年度に実施した部局現況分析評価の検証結果等をフィードバックすることで、各学部・研究科における自己点検・評価を有機的に実施し、現況調査表の作成を進めた。7月及び平成28年1月に各部局から提出された現況調査表について、評価センターを中心に各関係部署等の協力を得て検証を行い、それぞれ10月、平成28年3月に各部局にフィードバックすることで、更なるブラッシュアップを図りながら、第二期中期目標期間の自己点検・評価を実施した。 【大学機関別認証評価結果に基づく改善】 4月に、評価センター長・認証評価WG座長の連名で学長に対し、平成26年度実施・大学機関別認証評価結果を振り返って評価センターからの提言を行った。その後、平成28年1月に各部局に対して、「改善を要する点」として指摘された事項への取組・改善状況について照会を行い、監査体制の見直しや成績評価の異議申し立て制度の明文化など、改善に関する取組が実施されたこと、また入学定員充足率の改善については、各部局において留学生の受入を強化するなど改善に向けた取組を進めているとの報告があった。今後引き続き改善に向けてフォローしていく。 【研究者総覧による主要業績等の情報公開】 5月に企画・総務担当理事から各部局長宛に、研究者総覧による主要業績等の情報公開について、各部局における組織的な取組を依頼した。その後、公開状況等を定期的に把握するとともに、各部局に適宜、公開状況等の情報提供を行ったが、主要業績の公開率が30%未満に留まるなど公開状況が改善されなかった。この結果を受け、2月の部局連絡会で各部局の公開状況を報告し、3月には未入力教員に対して直接、入力依頼のメールを送付した。今後、4月時点の公開状況を分析し、公開状況の改善に向けた方策を検討する。
【総括記述欄】 【管理・運営面】 第三期中期目標期間を視野に入れて、平成28年度から副センター長を置くため、関係各所において調整を行い、平成28年3月の評価センター運営委員会で副センター長1名を置くことが承認された。また、平成26年度に引き続き、評価センター運営委員会法人評価専門部に委員17名、オブザーバー3名を置き、自己点検・評価及び報告書作成等の体制を維持するとともに、評価センターに係る事務については、総務・企画部総務課の事務職員3名(1名は重点配置)で主に対応した。	
【達成状況総括等】 全体的に目標を達成している。なお、上述のほか、以下の取組を実施した。 第二期中期計画に関する達成状況報告書の作成にあたっては、法人評価専門部に第二期中期目標期間評価WGを設置し、座長の下、WG(計6回)、担当理事の意見交換(1月～2月)などを行った。平成28年6月の提出まで引き続きブラッシュアップしていく。 評価センター長及び担当事務職員が、7月30日：国立大学法人等評価実務担当者説明会(大阪：大学評価・学位授与機構主催)、8月27日～28日：大学評価担当者集會(神戸：大学評価コンソーシアム主催)に参加し、内部質保証等に関する資質向上につなげた。教員活動評価については、評価センター長が、4月と10月の新任・転任教員研修会で講演を行った。また、本学の評価体制等について福島大学から来学視察があり、意見交換を行うとともに評価担当者間での交流を図った。	
【次期改善点等】 第三期中期目標期間が開始されるにあたり、年度計画に関する実施状況の検証・報告の在り方について見直しを検討する。 大学全体の組織目標を意識した部局運営を促進するため、部局組織目標の評価領域に管理運営を追加するなどの変更を検討する。 教員活動評価の制度全般について見直しに向けた検討を開始する。	